

第 4 章 推進施策

1 生涯学習にふれる

市民が生涯学習活動にふれ、取組みに向けて意識できるようにします。

(1) 学習情報を得る機会をつくる

(2) 身近な生活課題について学ぶ機会をつくる

(3) 国際感覚を持つ機会をつくる

(4) まちの歴史にふれる機会をつくる

方 向 性

生涯学習の必要性や大切さを広く市民に伝えるとともに、学ぶ意欲を持った市民が生涯学習活動にふれることができるよう、情報提供の充実を図ります。また、現在、生涯学習を意識していない人が身近なところから気づきを得たり、生涯学習への興味・関心を高めたりできるよう、市民にとって身近な生活課題や今日的課題、国際感覚をもてる機会やまちの歴史・文化などについて学べる機会に通ずるプログラムを充実します。

現 状 と 課 題

○生涯学習に関する市民アンケート調査（平成 27 年度実施。以下「市民アンケート」）によると、生涯学習について内容まで理解している人は市民の約 3 割となっており、さらに実際に活動している人（生涯学習を「頻繁に行った」と「よく行った」の合計）は 2 割強、「時々行った」は 2 割にとどまっています。また、生涯学習を行わなかった人（「ほとんど行わなかった」と「まったく行わなかった」の合計）は 5 割を超え、その理由としては、仕事が忙しく時間がないことの約 4 割に次いで、きっかけがつかめないことが 3 割に上っています。このように市民の生涯学習活動に対する意識や活動は活発であるとは言い難く、きっかけづくりも必要であるため、さらなる周知・啓発活動が課題です。

○現在、市民への生涯学習の情報については、「学級・講座・サークルのごあんない」や 社会福祉法人桑名市社会福祉協議会が発行する情報紙「あいりす」のほか、「メルマガ」、「くわなハッピーナビ」のような新たな情報発信も行っていますが、主としては「広報くわな」と市のホームページなどを通じて提供しています。しかし、ここでは生涯学習以外の多くの市政情報も掲載されているため、市民にとってよりわかりやすい提供方法の工夫が求められます。

- 時代のめまぐるしい変化に対応できるようにするとともに、市が目指す「全員参加型」の市政の実現のためには、人々の学びと行動が非常に大切になるため、時代に対応した様々な学習をさらに推進していく必要があります。
- 市職員が市政の重要課題や施策を市民の集まり（市民団体が開催する 10 人以上の集会）で説明する「ふれあいトーク」（出前講座）では、市民の関心が高い市のサービス内容のほか、市民に身近な生活課題、知識として市民に知ってほしい現代的な課題についての啓発活動も行っています。この事業の周知を図り、開催数と参加人数を増やしていくことが必要です。
- 市が訪日外国人旅行客の誘致（インバウンド）を推進する中、市民一人ひとりが異文化への理解を深め、国際感覚を持つことは外国人との交流にもつながり、本市の魅力を伝えるうえで重要です。また、「2016 年ジュニア・サミット in 三重」¹が市内を主会場に開催されたのを機に、子どもたちがグローバルな人材に育つよう継続的な国際交流が求められています。
- 市内には、「六華苑（旧諸戸氏庭園）」・「諸戸氏庭園」・「桑名城跡」などの庭園や史跡、「桑名石取祭の祭車行事」・「多度大社上げ馬神事」・「長島の八幡神社獅子舞」などの無形民俗文化財といった先人が残してきた郷土の貴重な文化財が多く残されています。しかし、市民アンケートでの「関心のある地域の課題・テーマ」として、地域の歴史・文化・自然に関することへの回答は 1 割台前半にとどまり、市民の重要な関心事とはなっていないのが現状です。市民がふるさとの魅力に気づき、学びを深め、歴史・文化への意識を高めるためにも文化財の調査や博物館の展示活動を継続して行っていく必要があります。

施策の展開

（１）学習情報を得る機会をつくる

市が発行する広報紙やホームページなどを通して情報発信を行うとともに、内容のさらなる充実を図ります。市の生涯学習情報がどこで手に入るのか、何を見ればよいのかについて、市民がよくわかり自分に最も適した学習機会の選択ができるように情報発信方法を工夫していきます。

また、市民の要望に応じられる学習相談体制の整備を図ります。生涯学習施設を中心に、関連施設相互の連携、ボランティアや市民活動とのネットワーク化を進め、情報の取得から参加までがスムーズにつながるよう適切なアドバイスの実施体制をつくります。

¹ 【2016 年ジュニア・サミット in 三重】平成 28 年 5 月に開催された「G 7 伊勢志摩サミット」の関連公式行事で、桑名市を主会場に平成 28 年 4 月 22 日から 28 日まで開催。G 7 各国（日本、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、カナダ）の若者 28 名が「次世代につなぐ地球 環境と持続可能な社会」をメインテーマに議論し、その結果を「桑名ジュニア・コミュニケ（声明）」にまとめたほか、交流行事などが行われた。

主な取組み

① 学習情報の提供

- 「広報くわな」、市ホームページをはじめ、SNS²なども活用した情報発信
- 生涯学習関連施設独自の情報提供
- 民間情報紙と連携した情報発信

② 学習相談体制の充実

- 生涯学習関連施設における相談対応



【学習情報の提供】

市内の各世帯に配布される「広報くわな」と、日々情報が更新される市ホームページは、幅広い市民への情報発信に最適。

このほか、学級・講座・サークルの募集案内冊子やイベント情報紙が関連施設などで配布されています。

（２）身近な生活課題について学ぶ機会をつくる

「ふれあいトーク」を継続して行うとともに、参加した市民の声を事業に生かすことで市民目線を取り込んだ事業内容へと充実を図ります。

また、人権が尊重される社会の実現に向けて一人ひとりの人権意識・男女共同参画意識の啓発、災害や犯罪・事故などから自分の身を守る防災・防犯・安全学習、巧妙化する詐欺に巻き込まれないための消費生活に関する啓発、まちの環境保全に関心を向ける学習、日ごろから健康管理が行えるよう健康づくりに関する学習を推進します。

このような身近な生活課題をきっかけとして途切れなく学びの機会を提供することで、市民が「知りたい、学びたい」と思う気運をつくっていきます。

主な取組み

① 市の政策・課題を市民と共有

- 「ふれあいトーク」を通じた市の課題の発信と共有

² 【SNS】Social Networking Service の略。インターネットを使って、特定の関心を持つ人同士が情報交換をしたり、コミュニケーションやつながりを促進したりするサービスの総称。

② 人権意識・男女共同参画意識の啓発

○イベント・講演会などの開催、啓発資料などの作成・配布

③ 防災意識の啓発

○地区自主防災訓練、広報による防災情報の提供などを通じた防災教育の推進

④ 安全・消費者意識の啓発

○防犯・交通安全・消費生活にかかる意識の啓発活動

⑤ 環境学習による啓発

○自然環境・省エネルギーやごみ減量といった環境意識の啓発活動

○環境実践行動計画にもとづく環境美化プログラムの推進

⑥ 健康教育による啓発

○市民の関心が高い各種健康教育の推進



【ふれあいトーク】

市内宅老所で「ご存知ですか？ 成年後見制度」をテーマに開催されたトークの様子。

説明を聞いた参加者からは、「制度を利用するにはどのくらい費用が必要か」といった質問や、「手続きを手伝ってくれる弁護士、司法書士を紹介してほしい」との意見が出るなど、制度の理解を深めていただけました。

ふれあいトークでは、100 を超えるテーマを用意して、市民との直接対話の機会を設けています。

（３）国際感覚を持つ機会をつくる

市民が国際的視野を持って共生社会を築いていくために、小中学校の英語教育などの推進とともに、外国人住民のための日本語教室の開催や国際交流の機会の充実を図ります。こうした意識や視野を持つには、小さい頃からの学習が大切であるため、地域の人あるいは親子一緒に参加できる勉強会の開催なども検討します。

主な取組み

① グローバルな視点と共生意識の醸成

○小中学校における国際理解教育の推進

○「日本語教室」や青少年国際交流事業を通じた国際交流の機会の提供

（４）まちの歴史にふれる機会をつくる

埋蔵文化財の調査や桑名に受け継がれてきた有形、無形の文化財の保存を行うとともに、これらを活用して広く市民に紹介し、まちの歴史、文化、伝統などに関心を持つきっかけとなる環境の充実に努めます。特に、博物館の展示では、重要文化財などの貴重な文化財を公開し、市民が郷土文化への理解を深められるよう取り組みます。

また、歴史の案内人や文化財サポーターなどのボランティア活動を促進し、市民との協働に努めます。

主な取り組み

① 文化財の調査・保存・活用

- 博物館資料の保存、埋蔵文化財の発掘調査を通じた文化財の調査・保存
- 文化財保護に関する市民意識の醸成
- 文化財を活用した市民への学習機会の提供
- 博物館における展示活動
- 歴史・文化の保存活動におけるボランティア活動の促進



【桑名市博物館・展覧会】

博物館では、桑名にゆかりのある企画展を年6回程開催。ユニークな切り口で桑名の歴史や文化にふれる機会を提供しています。



「大定信展」の様子。
桑名市博物館開館30周年を記念し、友好都市である福島県白河市との合同特別企画展として開催。寛政の改革を行った松平定信公の様々な資料の展示解説に歴史ファンが熱心に聴き入っていました。

2 活動に参加する

「学びたい」という意欲を持つ市民の誰もが生涯学習活動に取り組めるようにします。

(1) 様々な学びの場をつくる

(2) 活動のための環境を整える

(3) 市民の誰もが学習できる環境をつくる

方 向 性

学ぶ意欲を持つ市民や生涯学習活動を始めた市民が適切な学習機会を得られるよう、学習プログラムの充実を図ります。文化・芸術に関する活動をする人やスポーツに親しむ人たちが気軽に参加できるよう、生涯学習関連施設などの利用環境の確保を図ります。

また、学習意欲があっても仕事や子育て、介護などのために参加のきっかけをつかめない人、学習機会を持ちづらい高齢者や障害のある人たちが、生涯学習に取り組みやすい事業の実施を進めるなど、学習活動を支える環境づくりにより、支援の充実を図ります。

現 状 と 課 題

○三重県が「第3次生涯学習振興基本計画」（平成23年度～平成26年度）に示した市町の役割の一つに「いつでも、どこでも、気軽に学習活動に取り組むことができ、学んだ成果をまちづくりに活かせるような環境づくり」の推進があります。桑名市では、公民館講座88講座、公民館学級15学級（平成28年度）を開講しており、市民が気軽に学習活動に取り組む場はつくられてきています。今後は「学んだ成果をまちづくりに生かす」という視点を持って講座設計と運営を進めていくことが求められています。

○市民アンケートによると、学習の成果を生かして参加してみたい活動の上位は、趣味・芸術や健康・スポーツに関連する活動となっています。しかし、地域の課題解決を主体的に担える力を身につけ実践につなげてもらうには、現代的・社会的課題に対応した学習機会の場の多様な提供を行い、そうした課題に自ら取り組みたいと考える人が増えていく環境づくりが欠かせません。

○令和2年に入り世界中に広がった新型コロナウイルス感染症は、社会、経済など幅広い分野に深刻な影響を与え、生涯学習にも施設の利用制限や講座、イベントの中止など多大な影響が生じています。

- 「くわな市民大学」は郷土史や文学・美術、古文書などを学ぶ場であるだけでなく、市民が企画・提案する講座も実施しています。しかし、市民アンケートにおける認知度は3割強にとどまっており、周知によって認知度を高め受講者数を増やしていくことが必要です。また、自らが発信者として講座を担う市民を増やしていく工夫も求められます。
- 健康づくりを目的としてスポーツを始める市民が増えています。そうした市民が、より楽しみながら続けていけるよう、さらに普及活動を進めることが必要です。
- 人口減少・少子高齢化による公共施設利用者の需要の変化や、限られた財政のもと、既存の公共施設の老朽化による多額の維持修繕・更新費用が見込まれることから、市では公共施設の総量削減と最適な配置とを進めています。このような中での市民が活用しやすい学習の場づくりのため、公共施設の有効活用や地域に密着した場の活用の可能性について検討を進めていくことが必要です。
- 市民アンケートでの生涯学習を行わなかった人の理由には、仕事が忙しいことやきつかけがつかめないことのほかに、家事が忙しいことや、参加したい講座や教室などが身近にないこと、あるいは、時期・曜日・時間が合わないことがあり、現役世代を中心にその割合が高くなっています。こうした理由により生涯学習活動に参加できない市民にも配慮した学びの場の工夫が必要です。
- 桑名市の高齢者人口は35,232人（平成28年3月末時点）で、高齢化率は24.6%に達しています（令和2年3月末時点 37,331人、高齢化率 26.3%）。こうした高齢者が生きがいを持って暮らし、活躍できる地域社会の実現を目指す一環として、高齢者の多様性と自主性を十分に尊重しながら、高齢者の様々な社会参加の取組みへの支援を行うことが求められます
- 「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」により、平成28年4月から障害者に対する社会的障壁を除去するための合理的配慮が市町村に義務づけられたことを受け、障害のある人が安心して学びに参加・活動できるよう施設のバリアフリー化、通訳者などの設置、障害の特性に応じた指導ができる講師の確保など、学習環境の整備を進めていくことが必要となっています。

施策の展開

（１）様々な学びの場をつくる

「くわな市民大学」をはじめ、生涯学習施設で実施する様々な講座を、市民の学びの場として提供するとともに、趣味・芸術に関する内容の講座以外に学習ニーズのある健康、スポーツ、子育てなどの現代的・社会的テーマや、人権、男女共同参画、防災、消費生活、環境保全のような社会に求められるテーマ、市民が主体となる地域づくりにつながるテーマなどの講座の充実を図り、その際、コロナ禍のような著しい影響事象にも対応できるよう目指します。また、生涯学習施設が相互に運営課題や工夫、学習内容を共有できるよう、市全体として学びの場のネットワーク化に取り組みます。

健康づくりや仲間づくりなど、目的が多様化しているスポーツ活動については、子どもから高齢者まで気軽に始められ楽しむことのできる機会の充実を図ります。

主な取組み

① 学習講座・事業の充実

- 「くわな市民大学」をはじめ、様々な講座の開設
- 多様な方法による開かれた講座・事業の募集
- オンライン講座などの新しい技術を活用した学びの提供
- 生涯学習施設や庁内各部署の連携を生かした学習プログラムの作成
- 様々な体験事業や市民活動の機会提供
- 市民のスポーツ参加と継続の推進



【くわな市民大学】

市民の学ぶ機会、学びを次のアクションにつなげる場として開講。生活に密着したテーマや現代社会の諸課題について、専門知識を持つ講師を招いた講義だけでなく、市民グループやサークルによる文化や生活に関する市民企画講座も開催。

《写真・左》「バロック音楽の旅X講座」。《写真・右》「歴史・文学探訪－仏教文化から－」。ともに、くわなメディアライヴ多目的ホールで開かれた市民企画講座の様子。

（２）活動のための環境を整える

市民の生涯学習活動の拠点であり自主的な学習活動の支援の場である生涯学習関連施設について、学習のための機能の維持を図り、活動の場の確保に取り組みます。

また、小・中学校施設の市民開放など公共施設の有効利用に取り組むほか、コミュニティの場、市民の協働の場などの地域に密着した施設について、学習の場としての利用への研究を進めます。

主な取組み

① 生涯学習活動の場の確保

- 市民の学習活動を支える生涯学習関連施設機能の適切な維持

② 施設の有効利用の推進

- 既存の公共施設の活用
- 地域に密着した民間施設などの利用検討

（３）市民の誰もが学習できる環境をつくる

仕事や子育てなどにより、学習ニーズがあっても学習活動への参加が難しかった市民が利用しやすい環境を整えるとともに、市民の４人に１人の割合となった高齢者が生きがいを持って健康に暮らすための学習機会の充実を図り、その知識や経験を生かした地域活動への参加や、異なる世代との交流など社会参加を促進します。

また、障害のある人が自立のために行う学習支援の充実とともに、社会参加の機会の充実を図ります。手話通訳者・要約筆記者の活用による意思疎通支援の促進、芸術・文化、スポーツ・レクリエーション活動における活動支援のボランティアの育成などに取り組み、障害のある人が地域や社会で障壁を感じずに文化芸術活動やスポーツ活動に参加できる環境整備に取り組みます。

主な取り組み

① 現役世代に配慮した学びの場の工夫

○現役世代のニーズに合ったテーマと参加しやすい時間・場所での講座などの実施

② 高齢者の学びと活躍の場の提供

○高齢者が健康に暮らし活躍できるための事業の実施

○高齢者の活躍を促進する機会の提供

③ 障害のある人の学習機会の充実

○障害のある人の自立支援を進める学習機会の提供



【桑名いきいき体操】（市民と行政の協働で誕生）

「脳トレ」「準備運動」「筋トレ」「ストレッチ」を盛り込み、いつでも・どこでも気軽にできる桑名独自の10分間の体操。歩いて参加できる所で、みんなと一緒に健康づくりができる「通いの場」づくりが各地区に広がりつつあります。

3 知識を深め、生かす

市民が知識を深めることや技術を高めることへの支援に取り組み、その学びを生活などに生かせるようにします。

(1) 仕事に生かせる知識・技術の学習を支援する

(2) 子育て家庭を支援する

(3) 青少年を地域で見守る

方 向 性

市民が個々の学びを深め、その知識や経験を仕事や家庭、地域に生かせるよう学習機会の提供の充実を図ります。また、市民が互いに助け合い学び合える気運をつくるとともに、そうした意識が浸透し、地域ぐるみでの子育て家庭への支援や、地域に暮らす青少年の育み活動への参加につながるよう環境づくりを進めます。

市民が学びを深め、自らの暮らしを豊かにすることができるよう、効果的な活動支援に取り組みます。

現 状 と 課 題

○若年者を対象とした就職セミナーや関係機関と連携した就職相談、技能習得のための講座情報の提供を行ってきました。生涯学習を通じて自らの職業能力を高めたいという市民は増えており、新しい知識や技術を習得するための学習機会の提供に努めていく必要があります。

○国は、「知識を基盤とした自立・協働・創造モデルとしての生涯学習の実現」を新たな社会モデルとし、「絆づくりと活力あるコミュニティの形成」を教育行政の1つとして打ち出しています。地域で支援する家庭教育や青少年の育成は、そこに挙げられた「社会が人を育み、人が社会をつくる好循環」を築いていく実践でもあり、さらに促進させていく必要があります。

○現在、親としての心構えと知識を身につける学びの機会や子育ての助け合いの場づくり、親子が安心できる居場所づくりの事業を進めていますが、市民アンケートからは対象とする20歳代～40歳代で「知らない」がほぼ半数を超えており、周知の方法や情報提供の工夫が求められます。

○非行防止のための啓発活動をはじめ、青少年健全育成を推進する取り組みを行ってきました。市民アンケートによると取り組みへの認知度が高いとは言えず、地域住民の積極的な参画を促しながら地域の教育力向上を図っていく必要があります。

施策の展開

（１）仕事に生かせる知識・技術の学習を支援する

産業構造や就業構造、雇用環境は大きく変化しており、それは桑名市も例外ではありません。若年層の就業機会を広げ、勤労意欲を高められるよう、関係機関と連携して職業能力の向上を図る学習の支援を進めます。また、若年層だけでなく再就職を希望する女性のスキルアップの機会提供に取り組むとともに、退職後も働く場を求める中高年層の学習支援や情報提供を進めます。

主な取り組み

① 就労のための学習支援の充実

- 就労やスキルアップの希望に対応する職業教育に関する講座情報の提供
- 職業能力向上に関する相談対応

（２）子育て家庭を支援する

親や保護者が、「子どもを育て教育するためには自ら学ぶことが必要」という意識を持ち、自らが育児の技術を習得し実践につなげる環境づくりや、地域との連携のもと、放課後の児童の見守りと併せ遊びや生活の指導を行う場づくりに参加し、子育てを支援していく仕組みを築きます。

主な取り組み

① 親や地域の子育て力向上

- 子育てに関する知識・技術の習得支援

② 子どもの居場所づくり

- 親や地域による安全・安心な子どもの居場所づくりの推進





【プレママ・プレパパ体験】

もうすぐママ、パパになる方を対象に、赤ちゃんとの触れ合いや育児体験を通して、出産後の育児不安の解消をはかる事業です。

子どもが健やかに育つ環境づくりの一環として、市内の公立保育所で実施しています。

体験をした参加者からは「生まれてからの生活をイメージでき、とても勉強になりました。」という声が寄せられるなど、好評を得ています。

（３）青少年を地域で見守る

青少年が様々な体験を通して自ら考え、判断し、行動できる資質や能力を身につけていく時期に、地域の多様な年代の人と交流できるよう、青少年健全育成の支援に取り組みます。また、青少年を守り育てる市民の意識醸成に取り組むとともに、地域に参加者・協力者を増やし、活動の活発化と充実を図ります。さらに、青少年の非行防止の一環として、青少年の多岐にわたる悩みや保護者の相談に適切な助言ができるよう、相談事業の充実を図ります。

主な取組み

① 青少年健全育成体制の充実

- 地域における青少年の異世代との交流の場や居場所づくり
- 青少年の健全な育みにつなげる活動
- 青少年やその家族の相談への対応

青少年健全育成都市宣言をしています

青少年が、豊かな心と健やかな体を備え、教養と創造性に富んだ人間として成長し、自身の輝かしい未来を開き、社会の形成に主体的に参画することは、全市民の願いです。

市は、青少年が健やかに育つまちづくりに全市民が邁進することを決意し、桑名市を「青少年健全育成都市」とすることを宣言しています。

4 活動の成果を広げる

市民が自らの学習成果や、学んだ知識・技術などを、地域やまちづくりに生かせるようにします。

(1) 市民の主体的な活動を支える

(2) 成果を生かせる仕組みをつくる

方 向 性

市民の個人的な学習、共同学習・活動によって蓄積された経験や成果が、地域に広く生かされるとともに、学習者の充実感やさらなる向上心としてかえってくるよう、市民の主体的な活動の支援事業の充実を図ります。また、生涯学習や社会活動に取り組む市民同士の連携により、学び合い高め合う関係が地域に広がり根づいていくよう、学習成果を生かすことのできる仕組みづくりに取り組みます。

現 状 と 課 題

- 市民が主体的に行う文化・芸術活動については、その成果を発表するパブリックセンター等で開催される文化祭のような場が学習者の目標となっています。今後は、学習者だけでなく多くの市民が関心を持って集う交流の場となるよう支援をしていくことが必要です。
- 市民アンケートによると、ふだんから生涯学習関連施設を利用している市民は「生涯学習を通して身につけた知識・技能や経験の生かし方」を自覚していることがわかります。こうした意識を持って実践している市民の活動が周囲の市民への刺激となり、地域やまちづくりが活性化するよう「広げる」ための支援が求められています。
- 地域の課題やテーマに主体的に取り組む市民のコミュニティ活動やボランティア、NPO³活動を推進するために、市民活動センターの充実を図ってきました。市内には幅広い分野で市民活動を行う団体がありますが、ヒアリング調査⁴によると担い手や広報力不足の課題、関連機関との連携を望む声が聞かれます。今後は、団体育成、人材育成、活動のPR、団体間の連携強化など総合的に支援・推進していくことが必要です。

³ 【NPO】 ボランティア団体や市民団体など、自主的に構成されて営利を目的としない活動を行う民間の組織・団体（Non-Profit Organization）の総称。

⁴ 【ヒアリング調査】 生涯学習推進計画策定のために、生涯学習に関する公民館講座、サークル、支援活動、ボランティア活動を行う17団体を対象に行った対面による聞き取り調査。平成27年12月実施。

- 文化・スポーツ推進のため、指導者や団体の育成を行ってきました。今後も専門的知識を学んで指導をする市民（指導者）の育成と、活動を支えるシステムの維持が求められています。
- 地域で健康づくり活動に主体的に取り組んでいる組織が育っています。市民の健康づくりへの関心が高まっている中、こうした組織の活動が充実することで、健康づくりを市民に広めていくことが必要です。
- 市民の経験や学習成果を地域に生かす事業として市立幼稚園、市立小・中学校に「スクール・サポーター⁵」や、市立中学校に「部活動エキスパート⁶」を活用する事業に取り組んでいますが、市民アンケートによるとそれらの事業の認知は十分に広がっていません。認知を広げ、活動への共感と関心、参加する市民を増やしていくことが求められます。
- 昨今、地域のソーシャル・キャピタル⁷（社会関係資本）を生かすという考え方は、福祉分野に限らず地域の教育力を高めるという観点からも必要とされています。まちづくりには、一人ひとりの学びの成果を生かし合うことが何より大切であり、ボランティア活動の推進をはじめ、「地域をよくするために自分の学びや経験を生かしたい」と思う気運や、生かすことのできる環境づくりが求められます。

施策の展開

（１）市民の主体的な活動を支える

市民の様々な文化・芸術活動の成果発表の場として、「市民芸術文化祭」「市民展」や文化・芸術の講座を開設する生涯学習施設での文化祭が開催されており、それがグループ間の交流や地域活動へつながるよう事業の充実を図ります。

また、市内で主体的に活動するサークル・団体の活動支援を行うとともに意見を把握し、活動を通して培ってきた知識や技術、人のネットワークなどを地域の課題に生かす仕組みをつくっていきます。特に、文化・スポーツの振興を図るため、専門的知識を持つ指導者や団体を育てるとともに、市民が文化・スポーツを生活の一部として楽しみながら、さらに活動の輪を広げていけるよう団体間の交流を促します。

⁵ 【スクール・サポーター】保護者や地域住民がボランティアとして市立幼稚園や市立小・中学校の教育活動を支援する市の事業。「地域社会全体で子どもを育てる」という意識で、地域の特色を生かした教育活動支援をはじめ、図書室など学校環境の整備や行事の支援、子どもたちの安全支援を行っている。

⁶ 【部活動エキスパート】中学校の部活動において、専門的な指導ができる人が顧問の教師をサポートし、生徒個人やチームの競技レベルの向上を目指す市の事業。

⁷ 【ソーシャル・キャピタル】社会資本、社会関係資本と訳されるが、ここでは後者で、同じ価値観を持つ人々や互いに理解しあう人々のネットワーク。制度化された関係ではなく、グループ活動や市民活動など、多様な主体による協調行動に寄与するとされる。

主な取り組み

① 学びの還元の場の提供

- 市民の学習発表の場の提供
- 市民企画講座開講の推進

② 市民活動の支援と人材育成

- 研修会や交流会を通じた市民活動の支援
- 「人財バンク」の周知と活用の推進
- 地域づくりに必要な人材育成の講座などの開催
- 地域課題に取り組むサークル・団体の活動への支援

③ 文化・スポーツなどの指導者や団体の育成と活動の支援

- 地域の指導者や団体の育成と参加事業の推進
- 事業の開催による団体の交流の促進



【市民芸術文化祭】

毎年10月～1月にかけて美術、音楽、芸能などの文化団体が自ら企画し、舞台発表や作品展示、文化施設での関連行事を実施。身近なところで文化・芸術活動にふれることができる機会となっています。

写真は、平成27年の舞台発表の様子。



【市民展】

平成28年度で63回目を迎えた展覧会。日本画・洋画・美術工芸・書道・写真・陶芸の6部門で招待作品と一般作品を展示。これらの文化創作活動をする市民にとって、市民展への出品は一つの目標となっています。平成28年度の出展数は、229点。

（２）成果を生かせる仕組みをつくる

子どもの育みに主体的に参加する市民とともに、家庭・学校・地域の相互連携・協力体制のもと、自分の知識や経験を生かせる活動を通して地域の学校教育支援を行うことで、市民の学び合いや助け合いの活性化を図ります。

また、自己開発、自己実現につながるボランティア活動は、活動に必要とされる知識や技能の習得（学習）があり、その成果を生かす実践の場（活動）があり、それが誰かの生涯学習の支援となることもあります。地域の支え合い・学び合いがまちづくりの土台の一つになるという理念を持って、ボランティア活動の推進に取り組みます。

主な取り組み

① 地域による学校教育支援体制づくり

- 「スクール・サポーター」「部活動エキスパート」など、市民の力を生かした学校教育支援の体制づくり

② ボランティアの育成と活動の促進

- ボランティアの育成と活動支援
- ボランティア活動についての情報発信

桑名市市民活動センターは、市民活動を応援しています

市内には、市民が自主的・自発的に NPO やボランティア活動を行っている団体が、桑名市市民活動センターに登録しているものだけで 200 近くあります。

活動内容は、子どもの健全育成、国際協力、保健・医療・福祉、環境保全、まちづくり、学術・文化、災害救援など、多岐にわたります。

市民活動センターでは、このような市民の学び合いや活動を広げる機会の提供をしています。

- * 市民活動情報の収集・提供
- * 市民活動に関する研修会の開催
- * 市民活動に係る相談
- * 人財バンクの運営（市民の「できること」と、活動団体の「してほしい」のマッチング）
- * 団体の意見交換会や交流会の開催
- * 市民活動推進のための施設・設備の提供

5 行政の推進体制を整える

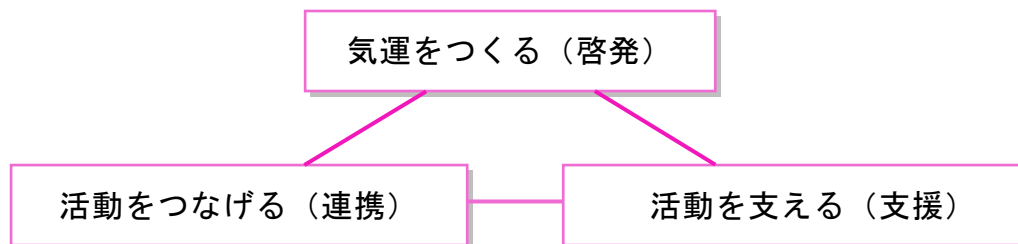
学びの各段階に応じた活動を市民一人ひとりができるよう、行政の推進体制を整えます。

方 向 性

生涯学習課が庁内の関連部署をはじめ、生涯学習関連施設と連携・協働して全体の推進を担います。

庁内の関連部署や生涯学習関連施設と連携し、生涯学習に関わる情報収集、課題の洗い出し、優先する取組みの整理を行うとともに、様々な媒体、場を通した生涯学習の情報提供の方法やツールについて検討・改善を提案していきます。また、学習や経験を地域づくりや日常の市民生活に生かしている団体の活動を参考に、市民の学習成果の還元モデルづくりを進めます。

なお、行政の体制整備を進めるうえでは次の3つの視点を重視しながら、市民の学習活動を支援します。



現 状 と 課 題

市民の生涯学習活動は広範囲にわたって行われており、その推進には全庁的な取組みが求められます。

庁内では、市の各事業を担当する部署がそれぞれに事業を実施しますが、生涯学習に関わる事業の実施にあたっては、「ひとづくり」「まちづくり」の観点を交え、生涯学習関連事業の効果を高めていく必要があります。市民の学びの段階に応じた学習機会の提案やそのための情報提供、また、学習成果や活動意欲をまちづくりにつなげる仕組みづくりまでトータルでとらえ、推進していくことが求められています。

施策の展開

市民目標に向けた行政の取組み目標の1～4を推進するための体制をつくります。

主な取組み

① 行政における情報共有、連携推進

○計画全体の調整、庁内各部署及び生涯学習関連施設との密接な連携

② 生涯学習に関わる団体などとの情報共有

○市民の学習サークル（団体）、ボランティア団体、NPO、生涯学習関連機関などによる活動状況や課題を共有

③ 市民の主体的な参加によるまちづくり、生涯学習の活性化の促進

○学習主体である市民の声の施策への反映、市と市民が協力しながらまちづくりの担い手を増やす取組み

④ 職員の意識啓発の取組み

○生涯学習推進体制づくりにあたり、庁内で生涯学習への理解を深められるよう職員の生涯学習に対する意識啓発の実施